

アジア共同行動日本連絡会議 第19回総会議案

(1) 2013年度活動報告・総括

(活動報告)

2013年

- 3月 第18回総会開催（日本軍「慰安婦」問題関西ネットから講演）
- 4月13日14日 再稼働阻止・全国ネットワーク全国交流会参加（羽咋市）
- 5月1日を前後して フィリピンISA参加
- 5月1日前後してアルバ連帯への訪韓
- 5月15日 沖縄闘争派遣
- 6月16日～24日 アジア共同行動各地集会（韓国からAWC韓国委員会、仁川サラム連帯、アルバ連帯が参加。東京、名古屋、京都、神戸、福山、福岡で集会開催。岩国で交流会）
- 7月7日 全国会議（京都）
- 8月6日 広島闘争（青空式典）参加（日韓同時行動）
- 8月14日 反靖国キャンドル行動参加
- 8月31日 全国会議（京都）
- 10月25日 台湾シンポジウム参加（林さん追悼記念シンポ）
- 11月10日 韓国労働者大会参加（アルバ労組、介護関係交流）
- 11月26日～ANSWERを迎えて各地集会・交流会を開催（首都圏、京都・IYA主催、神戸）
- 11月29日12月1日 「岩国行動2013」を労働者実と共催（ANSWER連合、韓国クンサン、在日BAYANが参加）
- 12月15日 京都Xバンドレーダー基地建設反対現地集会（京丹後市）
- 12月26日 李寿甲さんお葬式・訪韓

2014年

- 1月18日19日 再稼働阻止全国ネットワーク合宿参加（東京）
- 2月2日 全国会議（京都）
- 2月21日 「竹島の日」日韓同時抗議行動

（注1）フィリピン災害支援カンパ運動に11月取り組みました。

（注2）反原発集会などをはじめ、各地で取り組まれたさまざまな闘争は省略しています。また、全国事務局会議は、毎月一度開催していますがこれも省略しています。

(総括)

総括として、第一に、2013年を通して、各地で反基地闘争を取り組み、その集約環として「岩国行動2013」を国際反基地共同闘争として成功させたことです。

首都圏では、神奈川、横田など首都圏での基地問題、京都では米軍Xバンドレーダー基地建設反対闘争、山口九州では岩国や築城、そして全国で沖縄連帯、岩国署名など、各地で反基地闘争を強化・継続しつつ、「岩国行動2013」を成功させました。「岩国行動2013」は米国、韓国、フィリピン、沖縄、岩国、京都、神奈川の反基地国際共同闘争として成功しました。安倍政権の戦争国家化にむけた拍車がかかるなか、全国の反戦反基地闘争はその重要な抵抗拠点です。引き続き、反基地国際共同闘争の地平を前進させましょう。

第二は、反原発闘争を各地で推進したことです。各地で、反原発闘争の全人民的たたかいに参加し、また、経産省前テントなどへも参加し、各地で反原発闘争の一翼を担いました。

第三は、国際連帯を引き続き推進したことです。6月アジア共同行動各地集会での韓国を招いた集会、台湾シンポジウム参加や数度の訪韓、「岩国行動2013」での海外との連帯・共同闘争、8・6日韓同時行動への貢献、2・21「竹島の日」日韓同時抗議行動、フィリピン災害支援などです。

第四は、出版物や視聴覚材料などの圧倒的な弱さです。アジア共同行動日本連のたたかいをより広め、より大きくしていくためにもこの面での立ち後れは批判的に総括するべきだと思います。

こうした2013年のたたかいの意義と課題を継承し、2014年度のたたかいをより発展させましょう。

(2) 2014年度 情勢の特徴

情勢の特徴は以下の点にあります。第一に、安倍政権が生活破壊と戦争国家化へ拍車をかけていること、これを許すか否か、大きな歴史的な分岐点となるといって過言ではない危険な情勢に突入していることです。安倍政権は、しばらくは国政選挙がないことを利用して、生活破壊と戦争国家化に拍車をかけてます。労働契約法改悪、消費税増税、TPP参加、また、戦争司令部と言える国家安全保障会議の創設、特定秘密保護法制定、これらに続き、集団的自衛権「合憲化」、さらには、「国家安全保障基本法」制定の可能性や、九条改悪と国防軍創設などの動きなど、戦争のできる国作りに邁進しています。その一環として、靖国参拝の強行や、愛国心教育の義務化である道徳の教科化、あるいは、「日の丸・君が代」強制、従わないものへの処分攻撃、領土問題での排外主義扇動など、歯止めがありません。

第二に、こうした戦争国家化にむけて、全国の基地強化・新設、日米軍事同盟の再編強化を一層進めようとしていることです。

安倍政権は、普天間基地撤去と辺野古新基地建設に反対するたたかいに対する反動的巻き返しをその使命として登場した政権です。政府は、辺野古新基地建設のために、全体重をかけて知事の埋め立て申請許可を取り付けました。しかし、直後の名護市長選は

基地反対派が勝利しました。こうしたなかで、本年は、辺野古新基地建設をめぐり現地攻防が再び開始されることになります。高江ヘリパット建設、オスプレイ訓練、沖縄の基地強化がますます強まっています。岩国基地大強化も同様です。2017年59機艦載機移駐、F35配備、そして、愛宕山米軍住宅着工へと入ってこようとしています。京都での米軍Xバンドレーダー基地建設も着工をめぐるたたかいに突入します。日米軍事同盟の再編強化と基地強化・新設が大きく進むのか、それとも、たたかいと世論でこの策動に歯止めをかけるのか、大きく問われる年となります。

第三に、原発の再稼働に次々と突入しようとしていることです。

この面でも、安倍政権は、反原発の全人民的戦いに対する明確な反動的巻き返しを使命として登場しました。安倍政権は、発足以降、世界中に原発輸出の攻勢をかけてきましたが、いよいよ、国内再稼働にも踏みきろうとしています。北海道、東北、東京、中部、関西、中国、四国、九州の各電力会社が、泊、女川、柏崎刈羽、浜岡、高浜、大飯、島根、伊方、川内、玄海の各原発の再稼働申請を行っています。まず、川内が最初の再稼働に入る可能性が大です。続いて、伊方、高浜、大飯などが続く可能性が大です。今年、再稼働をめぐる言わば「決戦」の年となります。政府と原発推進派は、次々と再稼働に入ることで、反原発闘争を解体し、何事もなかったかのように、原発推進と核燃料サイクル政策を推進していこうとしています。反原発闘争の帰趨がかかった年と言っても過言ではありません。

第四に、人々の不満と抵抗闘争がますますその深部で拡大していることです。安倍政権が進める新自由主義政策、労働者からの強搾取と無権利状態の強制、独占資本の利益優先と民衆からの増税、そして、戦争国家化への法整備、治安弾圧、基地強化、改憲攻撃、こうした全体的な反動的な政治に対して、人民の不満と抵抗は本質的に拡大し激化していこうとしています。

以上が情勢の主な特徴です。

(3) 運動方針

こうした情勢のなかで、2014年の方針は、第一に、安倍政権に対する抵抗闘争を総合させ、国際連帯・国際共同闘争をもって安倍政権を打倒していくことです。私たちも、この全人民政治闘争の一翼で全力でたたかっていきましょう。

特に、安倍政権の原発再稼働、辺野古新基地建設、岩国基地強化、特定秘密保護法撤廃、戦争立法、戦後補償、靖国問題などの課題を重視してたたかいましょう。安倍政権を倒すために、あらゆるたたかいをこの一点に合流させ、民衆の力で安倍を倒す、これを合い言葉にたたかっていきましょう。各地で、首都で、こうしたたたかいの発展のために、ともにたたかっていきましょう。

- 特定秘密保護法撤廃のたたかいを各地で進めよう
- 解釈改憲による集団的自衛権「合憲化」に反対してたたかおう
- 「国家安全保障基本法」などの新たな戦争立法化策動、関連法律改悪策動に反対しよう
- 国民投票法改悪、96条改悪、九条改悪、憲法改悪に反対してたたかおう
- TPP反対のたたかいを進めよう

●安倍政権の雇用破壊・生活破壊に抗してたたかおう

●安倍政権打倒の対政府直接闘争を強化していこう。安倍政権に対する直接行動を重視し、首都での対政府闘争を強めていこう。安倍政権打倒の対政府中央闘争をさまざまな団体と協力して作りあげていこう。

第二は、原発の再稼働を阻止することです。福島第一原発事故以降、全国でたたかわれてきた反原発闘争、特に、街頭でのたたかい、電力会社や経産省、国会、首相官邸など、原発推進勢力に対する直接闘争を徹底して重視して各地でたたかきましょう。再稼働をめぐるのは、大飯でのたたかいのように、原発立地現地で直接の抵抗闘争をもって不退転の決意でたたかきましょう。

●各地で反原発反基地集会など、AWCでの開催を強めていこう。各地の反原発集会・闘争への積極的に関与し参加してともにたたかっていこう。

●再稼働現地阻止闘争を重視しよう。川内原発再稼働に反対してたたかおう。川内、伊方、泊、柏崎刈羽、高浜、大飯など、再稼働阻止全国ネットに参加してたたかっていこう。原子力規制委員会への抗議、公聴会などでの反対世論形成、川内現地闘争とたたかていこう。

●上関新規原発建設反対運動を重視してたたかおう。

●原発輸出反対はノーニュークス・アジアフォーラムなど共闘団体などに協力しつつ、AWC各国地域と連携しながら進めていこう。

第三は、辺野古新基地建設反対、高江ヘリパッド建設反対、岩国基地大強化反対、京都レーダー基地建設反対、オスプレイ反対、これらの反基地闘争を全国で進めることです。通年を通して反基地闘争を一層強化し、その山場として、11月29日30日の岩国反基地国際シンポジウムの開催と反基地文化祭の大きな成功を実現していきましょう。

(沖縄)

●5月沖縄闘争に派遣団をだしましょう。沖縄民衆連帯のたたかいなどに連帯していこう。

13日～18日のあいだで、分散派遣の可能性もあります。

●辺野古現地闘争への恒常的な支援・参加強化。全国各地での辺野古新基地建設反対の世論形成。

●9月名護市議選、11月沖縄知事選に連帯して、各地で辺野古新基地建設反対の世論形成に力を入れていこう。

(京都)

●京都Xバンドレーダー基地建設反対闘争に全国から連帯していこう。4・20現地集会に結集しよう。着工反対闘争を現地闘争としてたたかっていこう。

(首都圏)

●横田基地、神奈川の基地反対闘争を進めていこう。

(岩国)

●2017年にむけて、この間のたたかいをより発展させ、本年も各地で取り組みを発展させましょう。

●愛宕山見守りの集いへ参加しよう。岩国市民の諸取り組みに参加しともにたたかって

いこう。

- 夏期反戦合宿を岩国で開催し（岩国反戦キャンプ）、岩国市民とともにたたかう交流を進めよう。基地フィールドワークや市民との交流、講演などを軸に開催しましょう。
- 岩国からの韓国訪問と岩国・韓国反基地交流をともに前進させていこう。
- 岩国署名を継続し、6月アジア共同行動首都圏集会を前後して第一次提出行動を行おう。その後、岩国署名の第二次署名を継続していく。
- 消えた鎮守の森上映会を各地および韓国で推進しよう。
- 岩国国際DAYを作り上げよう。
- 11月「岩国行動2014」の新たな取り組みを目指そう。各地での反基地闘争の取り組みの上に、反基地国際シンポジウムをさまざまな人々とともに開催していくことを追求していこう。米国、韓国、沖縄、岩国、京都、神奈川（首都圏）の反基地闘争をつなげていこう。

辺野古新基地建設に反対するとともに、本年中での空中給油機部隊移設、2017年艦載機移駐、米軍住宅着工に反対する岩国内外を貫く闘争布陣の形成を目的にたたかいを広め強めていこう。諸団体によびかけての実行委員会の形成も展望していこう。

11月29日30日。29日3じ～国際反基地シンポジウム（第一部）の開催、夜、文化的取り組み（実行委主催）、30日午前国際反基地シンポジウム（第二部）の開催、昼・短時間の決起集会と基地までのデモ。各企画開催の場合は、29日夜に。

春季には、「岩国行動2014」で反基地国際シンポ実行委形成のよびかけを開始し、夏には、岩国で実行委員会の開催も展望していこう。

- 全国でオスプレイ撤回のたたかいを継続しよう。
- 8・6広島反核闘争をたたかおう。日韓同時行動として取り組もう。在特会の敵対をはねのけたたかおう。

第四に、差別・排外主義とのたたかいを進めることです。

安倍政権の戦争国家化は差別・排外主義の強化、愛国心教育などの強化を不可欠な一環として進められています。在特会や、さらに、田母神グループ・頑張れ！日本・全国行動委員会など、差別・排外主義勢力との大衆的なたたかいを一層強めましょう。

- 各地でひきつづき在特会などの攻撃とたたかおう。
- 「日の丸・君が代」強制反対、被処分者を支援しよう 道徳の教科化などに反対してたたかおう。
- 日本軍「慰安婦」制度問題での安倍や橋下の敵対を許さずたたかおう。
- 安倍首相の靖国公式参拝再強行を許さないたたかいを進めよう。8・15には、昨年同様、反対運動に参加しよう。台湾、韓国と連携してともにたたかおう
- 朝鮮学校への無償化排除、補助金打ち切りなどを許さずたたかおう

第五に、国際連帯と国際共同闘争を進めることです。

AWC国際幹事会（CCB）の韓国開催に結集し、AWC各国地域の連帯と共闘を進めよう。あらゆる面で、国際共同闘争を強め貫いていこう。

- 5月CCBの韓国開催に結集しともに成功させよう。
- 5月フィリピンへのISA派遣を送りだそう
- 6月アジア共同行動を韓国から招請し、韓国の民衆に連帯し、安倍政権打倒を掲げた

闘争として各地で開催しよう。期間は、6月14日（土）から23日（日）までとします。各地で調整に入ってください。

- 岩国と韓国の反基地共同闘争の前進をともに進め、訪韓団を送りだそう。
- 8・6広島反戦反核闘争に日韓同時行動として結集しよう
- 11月岩国での国際反基地シンポを、反基地国際共同闘争として成功させよう

第六に、反弾圧闘争を進めることです。

韓国入国は解除されました。ただし、フィリピンは継続しています。国際共同闘争を進めてきた私たちに対する国際弾圧は今後も続くでしょう。また、国内でも、反基地闘争、原発再稼働阻止闘争で、たたかう人々への弾圧の可能性は一層増大していきます。一切の弾圧を許さずたたかきましょう。

（年間の主な予定）

- 3月 総会
- 4月 20日、Xバンドレーダー基地反対現地集会
- 5月 ISA
- 5月 1日前後 アルバ労組連帯、韓国メーデー連帯参加
- 5月 3日～6日CCB（韓国）派遣団を出します
- 5月 15日を前後して沖縄闘争派遣団を出します（13～18の間で）
- 6月 14日～23日、アジア共同行動各地開催 韓国から来日 安倍政権に対する闘争と日韓連帯で開催
- 8月 広島闘争 日韓同時行動
- 8月 反靖国闘争 台湾韓国との連携
- 8月 夏期反戦合宿（岩国反戦キャンプ）
- 11月 岩国反基地国際シンポ（韓国、米国、沖縄、岩国、京都、神奈川・東京）
- 再稼働や基地問題での現地闘争結集などは情勢に対応して随時呼びかけてたたかっていきます。

（4）組織方針

第一に、アジア共同行動の拡大強化をすすめていきましょう。

第二に、アジア共同行動日本連絡会議を担う若い人々が中心になっていく運動と組織にどんどん転換していきましょう。若い人々が結集し推進できるアジア共同行動運動へと発展させていきましょう。そのために、人事面でも、若い人々が全国幹事や全国事務局を担う態勢強化を進めていこう。

第三に、出版物や視聴覚材料の充実を進めていきます。これは抜本的に強化しなければなりません。昨年度は、全国ピラを二度出ただけでした。

第四に、昨年は、合宿を見送りましたが、今年は、夏期合宿を岩国で反戦キャンプとして、アジア共同行動運動を担う全国的な活動家学習の場として開催していきたいと思えます。